

事業所管部局による点検・改善				
	項 目		評 価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	子育てと仕事の両立支援に対するニーズの増大を背景に、放課後児童クラブ数が年々増加している。また、国費を投入することで、円滑に環境整備が進み、児童の健全育成及び公益のために必要である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	市町村が行う事業に対して都道府県が補助する事業並びに都道府県、指定都市及び中核市が行う事業に対して、補助を行うものであり、国で実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	子育てと仕事の両立支援に対するニーズの増大を背景に、「子ども・子育てビジョン」に掲げる数値目標に従って、放課後児童クラブ数が年々増加していることから、優先度が高い事業といえる。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	-
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	適切な基準額を算定し、補助しているので妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○	交付要綱等で条件を定めて補助金を交付しており、資金の流れは、合理的なものとなっている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	新たに放課後児童クラブを実施するために必要な改修、設備等に目的を限定して補助している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）		-	-
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		○	本事業の補助金交付要綱において基準額を定め、実支出額と比較して、補助金の額を算定している。
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	24年度から目標値に近い値まで、毎年実績が伸びており、見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	実施主体である市町村等が負担する施設、設備の改修費等の補助事業であるため、児童のために活用されている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	26年度の活動実績は見込みを上回っている。
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	児童の適切な遊び及び生活の場として活用されている。
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）		○	本事業は、設備の設置・備品購入等に対する補助事業であり、施設整備に対する補助事業「放課後児童クラブ整備費」との事業内容の重複はない。
	所管府省・部局名	事業番号	事業名	
	雇用均等・児童家庭局	653	放課後児童クラブ整備費	
点検・改善結果	—		—	
	点検結果	放課後児童クラブは、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学しているおおむね10歳未満の児童に対し、授業の終了後等に小学校の余裕教室、児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的とするものである。 子ども・子育てビジョンにおいて、放課後児童クラブ受入児童数の増加が主な数値目標として挙げられており、放課後の児童の「生活の場」となる環境整備を推進する必要がある。 本事業は、待機児童の解消及び健全育成に資する重要な事業であり、26年度の各点検項目による評価も概ね妥当である。また、放課後児童クラブの改修等の当初見込みに対する活動実績の割合が年々増加し、26年度の活動実績は見込みを上回っていることから、効率的な執行ができています。		
	改善の方向性	本事業については、子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、内閣府に移管されるため、平成26年度限りで廃止することとなった。		
外部有識者の所見				
点検対象外				
行政事業レビュー推進チームの所見				
終了予定	本事業は平成27年度より内閣府に移管されることから、平成26年度をもって終了すること。			
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況				
予定通り終了	当該事業は終了するが、得られた知見は他の事業にも活用する。			

備考

平成26年度秋のレビューにおいて、女性活躍・子育て支援に関連する事業（放課後子ども総合プログラム）が議論され、当該事業も対象となった。

【指摘事項】

- ・教育部局と社会福祉部局との連携が未だ不十分であるほか、両者の責任関係が不明確であり、利用者の立場に立ったサービスの提供がなされているとはいえない。例えば、①事業主体・手法の一本化も含め、両者の融合を更に推進すべきではないか。
- ・地方公共団体レベルでの成果の検証の枠組みが明らかではなく、②地方公共団体レベルにおける事業計画と実施状況、その成果としての待機児童の数等を公表し、PDCAサイクルを確立すべきではないか。
- ・また、現場レベルで教育部局と社会福祉部局の連携を強化するための協議会の設置を推進すべきであり、例えば、③協議会の設置を補助の条件とするなどのインセンティブ付与などを検討すべきではないか。

【対応方針・スケジュール】

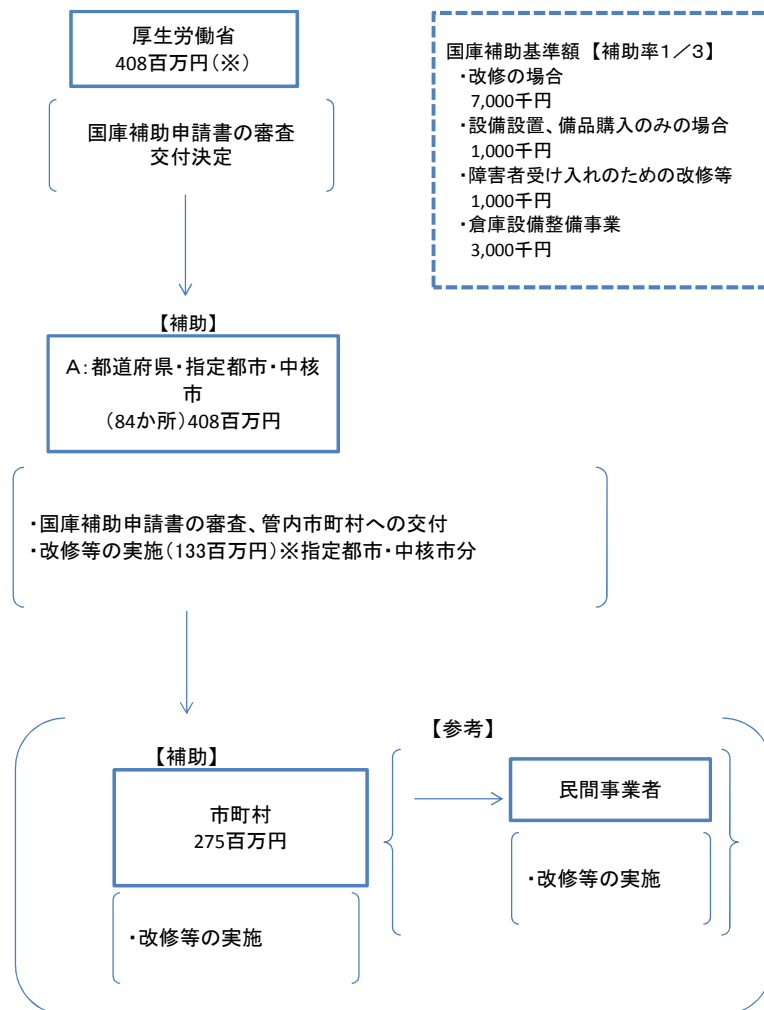
- ①教育委員会と福祉部局が事故が起きた場合等について事前にガイドラインを策定するなど両者で連携している事例や放課後児童クラブと放課後子供教室の事業主体が一括化されている事例などを自治体説明会・ホームページを利用して周知を図り、質の向上を図る。
- ②定期的に文部科学省と厚生労働省で、自治体に対して調査を実施し、事業の進捗状況を把握するとともに、一体型の事業を実施した際の効果についても分析を行う。また、待機児童の数等の状況については、すでに毎年調査を実施し、公表しているところであるが、地方公共団体別の待機児童の数についても公表を開始した。引き続き、調査結果を公表するとともに、調査結果等を踏まえ、必要に応じて自治体への助言、指導を行うなどPDCAサイクルを確立し、両事業の取組を推進する。
- ③平成27年度において、新たに学校区毎の協議会の実施に必要な予算を盛り込むとともに、一体型の放課後児童クラブ・放課後子供教室を整備する場合には補助対象とする。また、一体型を整備する場合には、優先的に予算措置を行う。

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	847	平成23年度	756	平成24年度	664	
平成25年度	642	平成26年度	646			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）



※本事業は、放課後児童健全育成事業費等と一体で執行しているものであり、執行額は、予算額を基に便宜的に按分し、算出したものである。

費目・使途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と使途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A.埼玉県			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
補助金	放課後児童健全育成事業費	20			
計		20	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	埼玉県	放課後子ども環境整備等事業費	20	－	－
2	東京都	放課後子ども環境整備等事業費	19	－	－
3	大阪府	放課後子ども環境整備等事業費	14	－	－
4	愛知県	放課後子ども環境整備等事業費	12	－	－
5	千葉県	放課後子ども環境整備等事業費	12	－	－
6	北海道	放課後子ども環境整備等事業費	10	－	－
7	茨城県	放課後子ども環境整備等事業費	10	－	－
8	福岡県	放課後子ども環境整備等事業費	10	－	－
9	兵庫県	放課後子ども環境整備等事業費	7	－	－
10	横浜市	放課後子ども環境整備等事業費	7	－	－